

地球 40 億年の歴史には 3 段階が考えられる。その 1 は、無の宇宙から太陽などのエネルギーが現れ、風や川の流れなどの「動き」が生まれ、それは「自然」と呼ばれる。その 2 は、自然から「命をもつ生物」が生まれ、それは「生と死」をもった。その 3 は、生物の中から「意識をもつ人」が生まれ、意識は「欲や善悪」をもち、地上に争いや貧富の差がもたらされた。

各段階は、前者からそこになかった動きや命、意識を生み出すことで、自然、生物、人といった新たな段階がつけられた。それは大きな時間の流れであり、進化ともいわれる。川や風はエネルギーを得ることで物理的な「動き」を生じ、生物は化学反応による体内循環によって「命」をえるが、同時に「生と死」という新たな属性も生じた。多様な生物種は大気や川などの自然に働きかけることで、生態系という無機的自然を含んだ新たな持続可能な動的構造を創りだした。そして、人は進化により意識という脳反応をえることで、自然から火を獲得し、多様な生物から作物や家畜を作り、よりよく生きることができるようになった。さらに人は集団化し、社会を構成することで、自然を制御し、産業をおこし、地球全体をも利用するようになったが、同時に様々な苦悩や災厄、戦争といった大きな難題もかかえてしまった。その問題の根源には、前段階の生物界が生態系として自然界の動きを阻害することなく取込み利用することで持続可能な構造となっていたのに対し、人社会は自然界や生物界を利用するだけで、その全体像を持続可能なものとして再構築してこなかったことにある。

では、現在の人社会から新たな第 4 の段階では何が生まれるのだろうか。それは人社会の構造を土台にしつつ新たな構造を生み出すと同時に、前段階の構造では制御しえないものである。とすれば、それは次世代のコンピューターであり、IT になるのだろうか。それはすでに人知を超えるといわれ、どこまでも進歩し続け、遂には人に制御できるのか不明であるともいわれる。人社会が、自然界の埋没エネルギーである化石燃料を利用し、作物や家畜などの生物世界を食食物にして発展してきたように、コンピューターも人社会の資源を活用して独自の進化を遂げることさえ考えられる。その時に、IT は、素朴な自然や無意識に生きる生物世界に対して現在の人社会がおこなってきたような無慈悲な扱いを人に対しても行うのではないかと気がかりである。前段階の人社会にはおそらくかなり手厳しいものになるのではないだろうか、現在の自然への私たち人社会の無頓着な扱いを見ていると大いに気になるところである。2023. 3. 25